産業マネジメント専攻　H20 年度　後期　（修了時アンケート）

修了時アンケート

①基礎データ

【二年間の総合評価について】

＜教育内容＞

本専攻が提供した教育内容について高い満足度（5 及び 4 評価の合計）を示した学生は 87%であった。多くの学が満足しているとしていると考えられ、「体系的な教育」「教員の熱心さ」「双方向授業の効果」など高い満足度が示されている。一方、「MOT の内容が不足」「2 年次はプロジェクト演習に集中せざるを得ないので通常の授業がとれない」などの意見も見られた。

＜カリキュラム体系＞

本専攻が提供しているカリキュラム体系について高い満足度（5 及び 4 評価の合計）を示した学生は 85%であった。多くの学生が満足しているとしていると考えられる。複数の学生から集中して出された類似定性コメントはないものの、「MOT が不十分」「法律関係の授業が必要」「リーダーシップ論の必要性」「マーケティング関連授業が少ない」などのコメントが寄せられた。

＜教育方法＞

本専攻の教育方法について、高い満足度（5 及び 4 評価の合計）を示した学生は、80%であった。多くの学が満足しているとしていると考えられる。

＜授業環境（設備等ハード面）＞

本専攻の設備等ハード面について、高い満足度（5 及び 4 評価の合計）を示した学生は、36%であった。教育の根幹にかかる問題点や大きな不満材料はないものの、教室設備（ビジネス・スクールに不向き、古い・・・等）、清掃についての不満が寄せられている。

＜授業環境（運営等ソフト面）＞

本専攻の運営面等ソフト面について、高い満足度（5 及び 4 評価の合計）を示した学生は、64%であり、教務サービス（学生第四係や専門職大学院係の対応だけではなく、教員が主導する専攻の教務サービス全般）の満足度の低さが課題である。具体的な定性コ

メントは殆どなかったため、何が問題なのかについては、更に調査する必要がある。

＜教員の指導＞

本専攻の教員の指導について、高い満足度（5 及び 4 評価の合計）を示した学生は、92%であった。多くの学が満足していると考えられる。

＜総合評価＞

本専攻に在学した 2 年間の総合評価について高い満足度（5 及び 4 評価の合計）を示した学生は、98%であった。ほぼ全員が満足しているという数字である。この二年間で得られたものとして「深い思考」「素早い決断力」「理論的思考」「多様性の理解」「物事の本質を見る視点」「経営全体を見て実行する力」「経営の軸を作ることの大切さ」などが上げられている。

【プロジェクト演習の評価について】

＜内容・方法・プロセス＞

当項目について、高い満足度（5 及び 4 評価の合計）を示した学生は 85%である。定性コメントにもネガティブな意見はなく、高い満足度を維持しているものと判断される。

＜演習活動・論文の出来映え（学生の判断）＞

プロジェクト演習活動及びその結果について、学生自身の高い達成度（5 及び 4 評価の合計）を認識した学生は 67%であった。「業務多忙のため執筆時間が不足していた」「自身の結果なので納得している」など、もっと出来たはずという苛立ちも見えるが、定性コメントの大半は「満足」「有意義」という意見が並ぶ。

＜努力したか（学生の判断）＞

学生自身の努力度合いについて、高いレベル（5 及び 4 評価の合計）を認識した学生は 87%であった。仕事、家庭、勉学という厳しい制約の中で最大限の努力をしたという自負も伺われる。

＜教員の指導内容、的確性、円滑性＞

当項目について、高い満足度（5 及び 4 評価の合計）を示した学生は 95%であり、高い満足度が表明された。

＜教員による対応の綿密性、丁寧さ＞

当項目について、高い満足度（5 及び 4 評価の合計）を示した学生は 92%であり、高

い満足度が表明された。

＜論文審査発表会のありかた＞

当項目について、高い満足度（5 及び 4 評価の合計）を示した学生は 90%であった。定性コメントには「今のままでよい」等の意見が示すとおり、特段問題はみあたらない。

＜総合評価＞

当項目について、高い満足度（5 及び 4 評価の合計）を示した学生は 92%であり、大半の学生がプロジェクト演習のプログラムに満足している結果となった。

② 集計結果の概観

【二年間の総合評価について】

極めて多くの学生が二年間の当専攻での「教育内容」には満足しているという結果が出ており、それ自体は関係者の努力の賜物であると考えられる。しかし、修了時アンケートには、個々の授業名が示されていないこともあり、個別の授業や個々の教育カテゴリーにおいては「前期・後期のFDアンケート」なども加味しながら改善努力を怠らないように心がける必要があると考えられる。また、「教育インフラ（ハード、ソフト）」については、満足度が低く、出来ることから順番に改善を行う必要があると考えられる。

【プロジェクト演習】

極めて多くの学生が高い満足度を示しているとはいえ、各教員が手綱を緩めず、慢心せず、授業改善努力を怠らない姿勢が必要であると思われる。

以上